

# 山鳥坂ダム、2026年度完成は困難 ダム本体施工場所に大規模な地滑り

2021年の5月15日の愛媛新聞で『山鳥坂ダム完成予定2026年度完成は困難、ダム本体施工場所に大規模な地滑り対策必要』と報道されました。

多くの方が、今更のように思ったといえます。この地域は、建設が計画された時から、地域の方々から崩落するといわれてきました。ダムを造っても土砂で埋まり、ダムの効果はない。何年も持たないといわれてきました。今後大規模な地滑り対策が必要といえます。さらに工事費が積増しされます。

## 山鳥坂ダム工事事務所 説明資料より

### ダムサイト右岸下流域の大規模地すべりについて

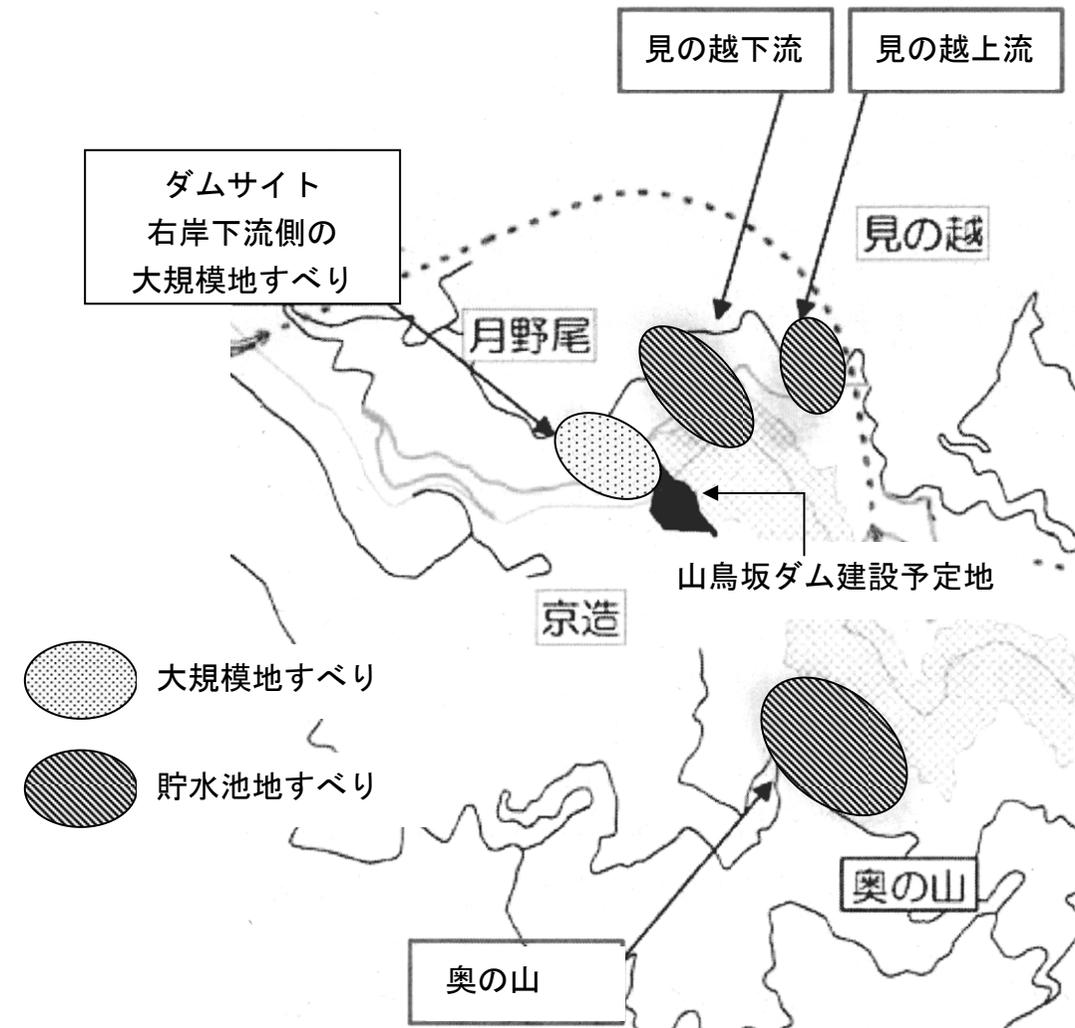
- これまでのボーリング調査により、ダムサイトの右岸側下流部に「ゆるみ岩盤」と推測した箇所が存在。
- 「ゆるみ岩盤」はダム本体の基礎岩盤としては強度が不足するものの、掘削を行うことによりダム本体の施工は可能であると想定。
- ダム本体の実設計に向けて、地質構造をより詳細に確認する必要があると判断したことから、高品質ボーリング等を実施した結果、「ゆるみ岩盤」と推測していた箇所が地すべり面を有している大規模な「地すべり」であることが判明。
- その結果、大規模な地すべり対策が必要となることから、事業費・工費に大きく影響することが判明。

### ダムサイト周辺の貯水池地すべり

- 見の越上・下流地区及び奥の山地区については、貯水池の水位変動に対する地すべり対策が必要。
- 貯水池地すべり対策工の実設計に向けて、地質構造をより詳細に確認する必要があると判断したことから、高品質ボーリング等を実施。
- 当初、想定していた対策工法の見直しが必要となり、事業費・工費に大きく影響することが判明。

## 山鳥坂ダムのダムサイトの精査

- 地すべり対策工法の見直しにともなう事業費・工期への影響を軽減する方策の一つとして現ダムサイト上流へのダムサイトの変更の可能性を検討するため、その周辺で高品質ボーリングなどを実施。
- ボーリング調査や地質構造、基礎地盤の強度の確認等を進めた結果、ダムサイトを上流に変更できる可能性も出てきたことから、引き続きダムサイトの精査を行う。



### 参考 貯水池地すべりについて

ダムを造ると当然、貯水池ができる。それまでは水に浸かっていなかった貯水池周辺の斜面が水に浸かり、ダム貯水位の変動に伴って斜面内の地下水位も変動し、地すべりが活動することがある。

最近の例では紀の川(吉野川)上流の大滝ダム白屋地区の貯水池地すべりがある。ここでは、住民が移転を余儀なくされ、ダムには水を貯めることができないでいる。